

(案) がんの緩和ケア処方マニュアル

～がん患者が痛みを訴えた時の処方・初めの一步編～

1 痛みの原因をアセスメント

- まず、**痛みの原因**が**がん由来のものか、がん以外**によるものか**評価**する。
(例：変形性関節症▶整形外科的な治療、腸閉塞の痛み▶腸閉塞の治療など)
- 痛みの**原因**が**がん**である場合、その**痛み**が**持続痛か突出痛**（体動時痛、発作的な痛み）か**評価**する。
- 痛みの原因が**がん以外**の場合には、その要因に応じた治療を行う。

2 がんによる痛みで、痛みが**軽度**の場合（参考：NRS0-10でNRS3以下）

- 消化性潰瘍**の既往、**腎機能障害**、**血小板減少**のいずれかがある。

処方例1

内容検討中



- 消化性潰瘍**の既往、**腎機能障害**、**血小板減少**はない。

処方例2

内容検討中



3 がんによる痛みで、持続痛、痛みが**中等度以上**の場合（参考：NRS4以上）

処方例

内容検討中

4 がんによる痛みで、持続痛がなく**発作的な痛み**だけで、痛みが**中等度以上**の場合（参考：NRS4以上）

処方例

内容検討中



※より詳しくがんの緩和ケアの処方を知りたい方は、埼玉県立がんセンター緩和ケア処方マニュアル（院内版）を御覧ください。